平成2６年度第２回大阪府市文化振興会議　議事要旨

１　日　時　　平成26年７月２８日（月）午前10時～１２時

２　場　所　　大阪市役所　屋上（P1）階 会議室

３　出席委員　橋爪会長、中川副会長、池末委員、井上委員、太下委員、佐藤委員（ＡＣ部会長）、里中委員、西村委員、松尾委員、山川委員、山口委員、山下委員

４　議　題

（１）アーツカウンシル部会の取組みについて

（２）その他

５　議事概要

（１）アーツカウンシル部会の取組みについて

　○佐藤部会長から、資料をもとに、アーツカウンシルの取組みついて大阪府市文化振興会議に報告。主な内容は次のとおり。

　　・まず、資料1の「１）上方芸能・上方演芸を大切に」について。上方芸能・上方演芸は大阪独自の文化資産であり、府・市ともに上方芸能の保持・継承・振興に力を入れて欲しい。

・大阪府のワッハ上方（府立上方演芸資料館）については、中長期的ビジョンを打

ち出し、安定した運営を。

・大阪市の文楽振興については、文楽協会への「運営助成」から文楽全体の「振興」

へと方針を転換しても、文楽振興は重点事業として積極的に実施して欲しい。

・次に、「２）新規事業案　フェスティバルという実験」について。府市文化事業

は、前回の会議でも報告したように「都市魅力」「人と地域のエンパワーメント」

が不足しており、浸透度が低い。事業設計、情報発信にもっと工夫が必要。また

現場を歩き、文化資産は豊かであるが、ジャンルごとの「タコツボ化」状態にな

っているのではと感じた。

　　・これを解消するために、「フェスティバル」形式での実験的な取組みを提案した

い。例えば、新規事業と既存事業を同時期に、文化的インフラの蓄積がある中之

島エリアでまとめて見せてはどうか。また、新規事業を行うことで、新たな人材、

新たな知恵、新たな手法の開拓にも繋がる。

・「中之島」をキーワードに府、市、民間など様々な文化団体・施設・活動をまと

めて発信し、新たな「つながり」を育てることで、脱「タコツボ化」が

実現するのでは。

○委員から次のようなコメントがあった。（→は佐藤部会長）

＜ワッハ上方・文楽＞

・ワッハ上方については、場所については当面現状のままでというのもプランとしてあると思うが、収蔵品等については、しっかり予算をつけて、活用しやすいようにデジタルアーカイブ化をするべき。その結果、その場所に行かなくてもそれらが便利に活用出来るのであれば、実際の展示場は一旦たたむ、というオプションもあるのでは。

・文楽は結構大変な問題。団体助成から事業助成に変わる中で、文楽協会の仕組みをどう変え、また支えていくのか、アーツカウンシルや文振会議の委員と共に考えていきたい。

・ワッハ上方については、これを文化財保護法の対象にするということは、文化が死にかけているということと同じ。積極的に活用の方向へ転換していくべき。今後、きちんとした専門の委員会を立ち上げ、未来に対してもう少し投資をするべき。

・文楽は文化財保護法による規制対象になっているが、可能な規制は緩和してもらい、伝統的な部分と、そこから新しく展開する部分とが上手く住み分けできるよう、文化庁と協議していく必要がある。

・まずワッハ上方について。文化庁で文化振興の基本方針の見直しを行って、その中間報告の大きな柱の一つとしてアーカイブの項目が挙がっている。この方向性で進んでいけば、各専門分野に特化した、ネットワーク型のアーカイブが必要となる。そうなれば、ワッハ上方は上方芸能の拠点であると同時に、日本の芸能アーカイブの拠点にもなりうるポテンシャルを持っているのでは。

・しかし、こういった演芸のアーカイブを保存し、活用する仕組みが現在確立されていない。ワッハ上方は、運営しながらこれを確立していくこととなり大変であるが、もしこの仕組みが確立出来れば、そのノウハウが演劇といった他の分野にも応用可能となるのでは。これから策定することになる中長期ビジョンでも、これらの点を考慮してもらえれば。

・文楽振興も、ワッハ上方と同様にビジョンが必要になるのでは。その場合、大阪市だけで策定するのではなく、文楽に大きな助成をしてもらっている国と一体的にやることがとても重要。大阪から国に働きかけてみては如何か。

・ワッハ上方の収蔵品についてはデジタル化が必須だと感じるが、将来的に色々変化することも想定して、バックアップなど様々な方式で記録しておくべきでは。あと、デジタル化して発信することは大事だが、人間は馴染みのないものを遠い文化として感じてしまうことがある。何らかの形で、現物との接点は確保しておくことが必要では。

・そもそも演芸は一瞬で消えていく文化だったが、フイルム等の発達で人はそれを残しておきたいと思うようになった。その一瞬の喜びを積み重ねていくことが文化の苗となる、そういう原点のようなものが感じられると素晴らしいなと思う。

・文化庁では、著作者不明のものや著作者の居所の解らないものを使用する場合、以前より手続き等の融通が利くようになってきているという事例もある。ワッハ上方も、勇気を出して過去の著作物を利用する・活用する・発信するという方向にしてみればどうか。

・文楽については東京と大阪で温度差を感じる。東京の文楽公演はチケットが完売でみんなが楽しみにしていると実感。大阪は「文楽を守らなければいけない・残さなければいけない」という声がとても多い。そうではなく、例えば、大胆で新しい演目等をもっと作ってもいいのでは。大阪の人々が意外と見逃しているものがあるのでは。

→色々ご意見いただき感謝。文化財保護の観点で言うなら、基本的には文化財保護課の担当となる。文化財保護にアーツカウンシルがどう関わるか、これは色々考えなければならない。

・上方芸能と文楽については、研究という視点も含めて産官学3つが一緒になってやっていくということが、大阪の文化行政の中では大切なのでは。

・私は文楽は死んだ芸能とは思っていない。ただ、演目を楽しむにはある種の人生の熟度がいるのか、若い人よりも50歳以上の方がリピートしてくれている。大阪市の新しい振興策の効果が出れば、大阪も超満員にすることも出来るはず。

・保持・継承・振興と３つ並べている中で保持・継承も大事だが「振興」というところにも力を入れていくべきで、文楽に関しても運営助成から文楽全体への振興へ向けて力を入れていくべきということか。

→アーツカウンシルは、運営助成から事業助成に転換することへの是非は議論していない。大阪市が文楽振興へシフトチェンジするので、その方針のもとでどうすべきかということを提言している。

・判断は大阪市がしており、これを重点化させようということか。

→振興に重点を置くならば、力を尽くしてくださいということ。

・上方演芸については、国あるいは大学と連携すれば魅力的な活用となるのでは。私が専門としている近現代の建築に関しても、日本建築学会のほうで、全国の大学研究者数百人を動員して、どのような設計資料が残っているかリスト化が始まっている。どのようなものがあるかを把握し、その価値を評価してどれをアーカイブ化するのかというプロセスが必要。資料を有効活用するために、大学等との連携プロジェクトに繋がれば。

＜フェスティバル構想＞

・佐藤委員からの報告を聞いて、とても楽しいアイデアと感じた。どうやれば人が集まるかだが、先日、天王寺のオクトーバーフェストに行ったが非常に楽しかった。10数万人の来場者があったみたいで、そんなにたくさんの集客があったのは、飲食の力が大きかったと思う。フェスティバルも、ただ文化芸術を鑑賞するだけだとさびしいので、その後に感想などを語りあえるように、飲食関連もフェスに組み込んで欲しい。例えば、中之島ゲートの向かい側には中央卸売市場もあるので、そういうところがビアホールになったりすれば、また面白いのでは。飲食と繋がれば、よりフェスが根付いていくと思う。

・前回の会議でフェスティバルについて意見を述べたので、今回はもう少し具体的に説明したい。

・まず、かつての大阪は、今の東京のように色々なパフォーマーや観客が集まり面白いものが生まれていたが、現在の大阪の文化芸術は、残念ながらタコツボ化状態。これではいけない。文化振興のためには、大阪をフェスのステージとして、もう一度盛り上げていくことが必要と考える。

・大阪からアーティストが育ち、府民が刺激的なアートを楽しみ、府外から人を呼ぶ。こうして都市魅力を上げるのがフェスの役割。ダンス、演劇、クラシック、児童演劇、写真等、各分野でエンタテイメント性が高い、楽しめるものを中心に複数のアートフェスティバルを同時期に実施出来ないか。これを大阪の名物にしないといけない。

・フェスの実施については、企画コンペ型になるのでは。内容と必要額をセットで提案してもらいH27年度に実施。そして、その成果をあらかじめ公表している指標で評価し、目標が達成できた場合には、同じ事業者にH28年度の企画提案についての優先権を与える。

・プロモーションも含めたフェスティバル群全体の予算としては1億円くらいを想定。シンボルイヤーに向けて、来年度は小規模でも各分野で出来るものがあればやって欲しい。そのためには、来年度に予算が出てからコンペを募集するのでは間に合わない。コンペだけでも今年度に前倒し出来ないか。

・活気あるご意見に感謝。予算確保の重要性は我々も同感。アーツカウンシルの議論で一番大事にしていたものは「才能が自由に動ける環境をつくる」という部分。先ほどは、完成したフェスティバルの姿をお話いただいたが、我々はそれが創られる過程そのものが大事ではと考えている。今、大阪で一番しんどいのが人材流出。その解消には、大阪に不信感を持っている人達に、あなた達が必要で、一緒に大阪の文化を創っていきたいんだというメッセージが重要。フェスの最終形だけでなく、その過程もアーカイブ化してしっかりと発信していく。こういったものを大きく看板として立ち上げれば、最先端のフェスティバルになるのではと考えている。

・大阪には、滋賀県のびわこホール、兵庫県の兵庫県立芸術文化センターのような、大阪府立、大阪市立の劇場がなく、文化芸術の公益財団法人がない。　そのため、文化芸術の専門家がおらず、継続的な主催事業の立ち上げが難しく、よってノウハウが蓄積しないという特殊事情がある。

・フェスティバルであれ何であれ、文化芸術事業を実施するには、プロデューサー、ディレクター、実行部隊が必要。今回のフェスティバル案では、誰が、どの団体がその役割を果たすのか。「劇場もない、文化芸術財団もない、専門家も実行部隊もない」という現状で、フェスティバルを実現するには、みんなで知恵を出し合い、何とかやり遂げるしかない。　７月にニューヨークの視察に行ったが、官民ともに様々な文化芸術イベントが行なわれていた。　都市が大きいのでどこで何をやっているのかすべてよく見えているわけではないが、ニューヨークや大阪のような大都市では出来るだけ見えるようにフェスティバルとしてまとめてやる、という方向性は良いと思う。

・予算も限られているので、大阪府市主体の事業に加えて、民間の優良な事業もラインナップに取り込む、あるいは新進アーティストの公演をフリンジの形で参加させるといった工夫も必要ではないか。　さらに、寄付やファンドレイジングの取り組みも勘案すべき。

・積極的で攻めの提案に感動した。「実験」というからにはやはり現状に何か課題があるからだと思うが、その一つが、アーツカウンシルからの報告にもあったように、大阪での色々なノウハウの蓄積や人材の育成、資金も含めてのサポートの集約、そういったものの力が弱いこと。そして、そういった大阪の力を育て引き出すために、フェスティバルを仕掛ける必要性についてよく理解できた。

・テーマや目的が明確で、大阪の課題を乗り越えるための改善を行うのであれば、ＰＤＣＡを回さなければならない。行政はＰＤＰＤばかりでよく失敗しており、ＣＡの部分が大事になってくるが、そのためには年度ごとの目標とその達成度合いが重要。今回の事業案では、具体的に、あるいはイメージとしてこれは定めているのか。

→今回の提言は、大阪の現状をとりあえず突破したいという第一段階。今後、アドバイスをもらいながら考えていきたい。

・フェスティバルそのものが目的ではなくて、大阪の弱点を解決するための手段としてのフェスティバルという提言。大阪の現状をとても的確に理解しておりすごく嬉しい。こういった目的実現に対して、どう評価していくのか。今後出来るだけ早く議論していきたい。

・フェスティバルという提案、とても楽しみでぜひ実現して欲しい。子どもに本物の芸術を触れさせたいという、親御さん達の声を周りでよく聞く。芸術の種類によっては、大人になってから初めてその味わいを感じるものもあるが、小さい時に触れることでとても効果が出るものもあり、色々な層にしっかりと行き渡って欲しい。

・海外では、音楽祭というフェスティバルが生活に根付いており、その時期は食事も含めてみんなが一日中楽しめる環境が整っている。みんなが求めているものをちゃんと提供できているかがとても大事だと思う。

東京の特色は、色々な地域から集まってきている人々の中で築かれたものも大きいが、それに比べて大阪は人々の地域性もより強く、とても個性的。こういった人達が、どんな文化芸術を心底面白いと感じるか、どうすればそれらが生活の中に根付き定着していくのか、実験して探っていくことはとても大切。

・今日の提案・提言の全てを聞き、これらを連動させていく必要があると感じた。抽象的な企画案を提示するだけでは、なぜ大阪なのかが明確にならない。大阪出身でない私からは、今の大阪は場所としてあまり魅力的に映らない。それは、少し古い言い方をすれば、アイデンティティーのようなものを喪失しているからだと思う。東京の場合、つまらない町並みでも注目されているのは、80年代に研究者が徹底的に江戸文化の研究を行い、江戸という誰も知らない過去の文化的な繁栄のイメージを上手く東京に結合できたからだと思う。

・フェスティバル事業案はとてもおもしろいが、それを東京や京都でもやれるというようなものにするのではなく、大阪のかつての魅力をもう一度取り戻すようなフェスティバルの内容を検討することが、今の段階では大事。

・今回の提案の方向性に沿って次回は具体案が出てくるのかと思うが、ぜひ大阪の文化の課題を解決するようなことを色々盛り込んでいただければ。例えば、新潟でアートミックスジャパンというイベントがある。これは１公演だいたい45分というとても短い時間で、日本の一流のパフォーマンスが楽しめる。歌舞伎、狂言、能などの様々な演目の美味しい部分を短いダイジェスト版で紹介しておりとても面白い。わざわざ伝統芸能を観に行くのは少しハードルが高いと感じる人達にとっても、こういう仕組みなら本物に触れることで興味が湧く事もあるのでは。

・今回の議論でいくつか論点が明確になったと思う。一つは文楽、ワッハ上方についての我々の視線の定め方。文化財保護か、活用なのか。文化財保護に関しては、このカテゴリーでは我々は口出しはしない。これはかなり当初から確認されていたと思うので、佐藤委員の提案の方向というのは、それに一致しており安心した。ただ、大阪の都市文化の発展のため、文化財をどう活用するかという戦略については我々も考えなければならない。ワッハについては、デジアルアーカイブ化について口出しはできる。文楽についても、団体支援ではなく、今後の展開についてはどんどんアドバイスできるんだと私は理解した。振興というのは読んで字のごとく眠っているものを叩き起こすという意味。つまり、古びているところにもっと新しい刺激を持ち込もうということ。文楽は大阪の誇り、文化産業装置として使うという大胆な発想があってもいいのでは。

・もう一つ、オリンピックが近づくにつれて東京の文化芸術界が非常に活気づいている。予算が大きいということも見えてきた。こうしたことに対して、行政はチャンネルを敏感にして国の動向を把握し、もっと政策的なものを起こす必要がある。そうやって文楽をバックアップするという大きな姿勢が必要では。それからワッハ上方、文楽の両方ともビジョンが必要というのは、非常に良い指摘。

・3つ目の論点、フェスティバル構想の池末委員の事業案については非常に具体的で面白かった。しかしこれは、佐藤委員と意見交換をされていない私案の段階かと思うので、改めて佐藤委員と話し合いをして欲しい。今回のフェスティバルという提案は、前回の会議で私が、そろそろ実験的なプロジェクトを出す時期が来ていると発言しており、その延長戦上であるなら、プレッシャーとなってしまっており申し訳ない。また、アーツカウンシルは提案はするが、実施主体や予算はあくまで行政ということを改めて確認しておきたい。

・アーツカウンシルそのものはまだよちよち歩きだが、一つのしくみとして出来てしまったことで少し安堵感が漂っている気がする。そうではない。佐藤委員を中心に他の委員が支えてくれているが、このメンバーは事実上の頭脳であり、手足ではない。アーツカウンシルの手足となる、事務局的な体制の整備、それと併せて、佐藤委員のアドバイザー業務での位置づけについても確認して欲しい。

・寄付については、ふるさと納税をもっと活用出来るのでは。例えば寄付者のクレジットなどを出してみたら効果があるのでは。こちらについても研究して欲しい。

・もう一つ。パリの地下鉄の駅構内や車内で、芸人さんのパフォーマンスや演奏家の人たちが演奏するといった取組みがある。東京では上手くいかなかったと聞いているが、大阪でやってみるのはどうか。挑戦的ですごく面白いと思う。

・皆さまから様々な意見をいただき感謝。たいへん参考になった。現場を見ると、みんな新しいことをやりたい思いはすごくあるが、人手・時間・お金がないという状況。だから、そういう部分の環境づくりを行政として支援できないかなと強く願っているところ。また、新しいことをやるにはハブになる人も必要で、そういう人材を現場の団体と組み合わせて、新しいことに発展していけるような仕組みを考えたい。

○会長が、本日の審議について、次のようにまとめを行った。

・我々の審議会は大阪府市の文化振興の会議。文化や振興については各委員の考えも色々あるかと思うが、新しいことに挑戦するという、従来なかった振興のあり方を本日は提案してもらった。我々が考えるきっかけになる問題提起でもある。

・アヴィニオンやエジンバラといった欧州の各都市では、分野に特化した、または方法論が極めて独特なフェスティバルを立ち上げており、世界中から多くの人々を集めている。我々は、そういう成功事例だけを見て、後を追うということをしがちだったのではないか。

・今回は、大阪独特の新たな事業としてフェスティバルを立ち上げ、その支援の方法もゼロベースで考えていこうという提言。とても挑戦的であり、新しい意欲的な文化政策の柱になるのではと感じる。

・日本の他都市でも、各自治体の文化振興財団等が実施主体として様々なフェスティバルを行っている。従来なかったフェスティバルの実現に向けて、府市としても行政の役割を果たすよう頑張って欲しい。

・本日のアーツカウンシルの提言では、フェスティバルを中之島で集中させようということだったが、一方で、街全体で展開するようなフェスティバルもあるので、その関係等についても今後整理していく必要がある。

（２）その他

　特になし。

（閉会）